

たかしま 広報

Takashima City
Public Relations

2018

平成30年

1

月号

No. 216

主な
内容

- 特集1 健康アプリ「^ビワ^フ-^テク^ク」開始 …………… 4
- 特集2 高島市の未来を担う人材育成 高校生キャリアデザイン 6
- ・年頭のごあいさつ …………… 2
 - ・空き家を活用しませんか? …………… 9
 - ・特定健診の受診期限は1月31日まで! …………… 18

謹賀新年

熱気球琵琶湖横断大会

12月2日(土)、琵琶湖の西から東に流れる風に乗って、熱気球愛好家の人々が、雄大な自然を楽しみながら琵琶湖を横断しました。

会場では、この絶景を写真に収めようと、全国各地から写真家も集まり、会場が熱気に包まれていました。

無料アプリ「マチイロ」で広報たかしまが読めます!

「広報たかしま」はスマートフォンアプリ「マチイロ」でも配信しています。スマートフォン等から当アプリをダウンロードしてお使いください。

※アプリのダウンロードは無料ですが、通信費は利用者のご負担になります。

マチイロ

検索

高島市公式

フェイスブック
Facebook

インスタグラム
Instagram

で情報発信中!

こちらの名前でそれぞれ検索してご登録をお願いします。

・Facebook「あっと高島」 ・Instagram「takashima city #たかP写真館」



イメージキャラクター
「たかP」



高島市長
福井 正明

新年あけましておめでとうございませす。市民の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年1月の市長選挙において、2期目の市政をお預かりさせて頂いてからまもなく1年を迎えますが、昨年は、今後10年間のまちづくりの方向性を示します第2次高島市総合計画がスタートするなど高島の将来を方向づける重要な1年となりました。

なかでも長年の課題でありました庁舎位置問題は、市議会6月定例会において、現庁舎位置を本庁とする条例案が賛成多数で可決されたことにより、本年8月に完成します増築庁舎とあわせ、ようやく本庁機能が一か所に整うこととなります。

また、平成26年にダイオキシソ類超過事案で市民の皆さまに多大なご迷惑をおかけしました環境センターは、本年2月に焼却炉を停止し、3月からは民間事業者にごみ処理を委託することとなりました。今後は平成37年度末を目途に市内で新たなごみ処理施設を建設するための準備にとりかかることとなります。



新年あけましておめでとうございませす。

市民の皆さまには、ご家族おそろいで、健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年1月、大雪に見舞われながら選挙が行われ、総勢18人の議員が新しく選出され、早や1年が過ぎようとしています。昨年を振り返りますと、9月27日に、関西電力と高浜発電所に係る「原子力安全協定」を締結し一歩前進しましたが、今後も徹底した安全確認が必要です。

そして、風水害においては、皆さまの記憶にも新しい10月22日深夜、台風21号の襲来により強風で多くの被害が生まれました。幸い人命にかかわる被害はありませんでしたが、停電による市民生活の乱れや企業活動の停止など、ライフラインの復旧に新たな問題を残した災害でした。

議案審議におきましては、庁舎位置条例が4度目で可決され、今その槌音が響いています。市民サービスの向上を図り支所の体制強化策と並行しその実現に向けて一歩進んでいます。

さて、私が日々考えるに議会の役割の第一義は、市民の皆さまの安全・安心をどのように保証するか、市民の皆さまがその安心をどのように享受していただ

市政に山積する課題に対しては、決して先送りすることなく、時には大きな決断をしながらも、将来の高島市の礎を築くための市政運営に心がけてきました。

さらに急速に進行する人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくため、昨年も新たにいくつかの企業誘致に挑戦し、11月には、道の駅しんあさひ風車村を民間資本によるグランピング施設（ホテル並みのサービスを受けられる豪華なキャンプ施設）として再整備することを公表しました。市内に点在します観光資源を周遊する拠点として、観光振興はもろろん雇用の創出、都市住民との交流など高島の活性化に大きな期待を寄せているところでもあります。

合併後14年目を迎えますが、めまぐるしく変化する社会情勢に伴い、高島市も大きな転換期を迎えています。高島の将来をしっかりと見据えながら、次なるステージへ導いていくために、本年も全力で市政運営に取り組んでいく所存です。

新年の門出にあたり、市民の皆さまのご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

るかを決める責任が課せられていると思っております。その中には、医療の安心・老後の安心・生活の安心・災害からの安心・教育の安心・子育ての安心・若者定住など種々の要素があります。

これらの要素を議論する中で、「人口減少」という問題が、市にさまざまな問題を引き起こしています。人口減少は止まるどころを知らず、10月時点で49,700人台に突入しました。現状を嘆く事より、いかにして若者が高島に定住してくれるか魅力の創造と施策の構築が喫緊の課題と捉えています。

特に、私としましては、国道161号の整備促進、河川の整備、JR駅のバリアフリー化および湖西線の利便性向上など、インフラ整備の早期実現が最大の課題であると考えています。

国土強靱化に伴う事業の進展、働く場所の確保、若者が楽しく生活できる環境整備など多くの課題解決が今求められている折、4期目となる議会の活動を活発に行い、市民の皆さまの負託にお応えできよう尽力していきます。

本年もどうぞよろしくご指導、ご支援をお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

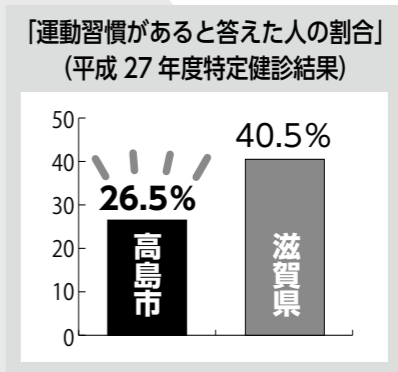


高島市議会議長
石田 哲



新年から、健康生活始めませんか？ 健康アプリ「BIWA-TEKU」開始

平成27年度特定健診結果によると「運動習慣があると答えた人の割合」は滋賀県全体では40・5%のところ、高島市は26・5%と約15%も少ない状況です。



また、その他の健診における県内順位では、肥満は2位、高血圧、脂質異常症は6位と高島市での割合が高い状況になっています。
運動する習慣を身に着け、健康寿命を少しでも長くするため、新年から健康アプリ「BIWA-TEKU」を始めましょう。

歩いて、参加して、
ポイントを集めて...
楽しくみんなで健康に!



健康アプリ「BIWA-TEKU」って？

「ウォーキングをしたいけど、どこを歩けばいいかわからない」「何か目的がないと面白くない」など、運動を始めたいけどきつかけがなかった方におすすめの、スマートフォン向け健康アプリです。

「BIWA-TEKU」では何ができるの？

滋賀県内の参加市町がおすすめするさまざまなコースを紹介しており、対象スポットを巡ると健康ポイントが取得できます。
また、実際に歩いた歩数をカウントし、琵琶湖一周等を目指すバーチャルラリーも楽しめます。

健康ポイントって何？

健康ポイントは、対象スポットを巡ったり、各市町の健康イベントや特定健診・がん検診に参加することでもためることが出来ます。

1年間ためたポイントは、翌年の賞品抽選の応募に使えます。
(応募には一定の条件があります)

ぜひこの機会に、健康アプリ「BIWA-TEKU」をインストールしましょう。



歩いてポイントゲット!

「BIWA-TEKU」ポイントラリーコース紹介 近江高島・大溝の水辺さんぽコース

スタンプをためてポイントゲット!

- 1 大溝城跡
- 2 乙女ヶ池・太鼓橋
- 3 日吉神社御旅所・常夜灯
- 4 四高桜の碑
- 5 町割り水路
- 6 総門
- 7 古式水道
- 8 日吉神社・大溝祭

琵琶湖

近江御旅所



アプリをご利用の際は、歩きスマホなどに注意し、マナーとルールを守りましょう。



イベントでポイントゲット!

健康イベントに参加し、楽しく学び、ポイントを受け取れます。



けん診でポイントゲット!

特定健診・がん検診など、けん診を受診しましょう。



参加方法

お持ちのスマートフォンで、左の二次元コードを読み取り、アプリをインストールしてください。

BIWA-TEKU アプリ 二次元コード



※アプリのダウンロードは無料ですが、通信費は利用者のご負担になります。

ポイント取得期間

1月10日～12月31日まで

賞品応募期間

平成31年1月1日～1月31日

（ポイント取得期間終了後の1月1日～1月31日まで）

参加市町等

大津市、草津市、栗東市、甲賀市、湖南市、高島市、東近江市、米原市、竜王町、多賀町、全国健康保険協会滋賀支部

BIWA-TEKUアプリ
050(3702)1640
050(25)8137
050(25)8078

特集2 高島市の未来を担う人材育成

高校生キャリアデザイン

今までに世界中が経験したことのないような人口減少と高齢化による私たちの生活への影響は、専門家にも予想不可能とされています。

これから社会に出て行く子どもたちには、新しい時代を生き抜く資質と能力が必要になります。それは学校や家庭だけで培われるものではありません。

子どもたちは、地域での実践や経験から深く学び、それを教科学習に結びつけることで、より自身の成長を加速させます。そうすることで、地域への深い理解や感謝の思いが郷土愛となり、その自信をばねに世界へととはばたくことができます。

高島市を持続可能な地域とするためには、グローバルに考え、ローカルで活躍する「グローバル」な人材を育成することが必要と考えられています。

高校生キャリアデザイン研究会

今後の地域連携によるキャリア教育を推進するため、地域教育実践者や教育関係者たちによる研究会を平成28年度に立ち上げ、事業の必要性・あり方や目標・方針について研究を深めています。

▼アドバイザー
株式会社Prima Pen
代表取締役 藤岡 慎一氏

▼研究員
地域教育実践者、市PTA関係者、高島市内事業者、市内学校関係者など



地域の「かつこいい」 大人に出会う

高島高校・安曇川高校の1年生を対象に、高島らしい働き方や暮らし方、グローバルで活躍する市内事業者などを知ることや、魅力的な大人から直接話を聞くことで、自身のキャリアデザインについて考える機会を創出しました。

平成28年度には、出版社の編集長をお招きし、編集の仕事やキャリアデザインについてのお話をさせていただきました。

その後、たかしま有機農法研究会の若手生産者による、高島で働くことや高島の将来について考えるパネルディスカッションと意見交換を行いました。



魅力的な職場を訪ね 学ぶことの意味を知る

平成28年度は、高島高校と市が協働で「高島での暮らしや働き方、生き方を知る」授業を実施。1年生の総合学習の時間を利用して、地元企業で働くことの意味についてお話を聞き、学ぶことの意味を考えました。

報告書の作成授業では、調査力・コミュニケーション力・まとめる力を養いました。

本年度も1月16日～30日の間に開催する予定をしています。市内事業者の皆さんのご協力をよろしくお願いします。



学習と学問の 違いを知る

生徒一人一人が自己のあり方を考え、主体的に進路を選択することができ、自己実現への確かな手応えを実感できるようにすることを目的に、安曇川高校普通科1・2年生を対象に県下で初めて、目の前にある社会のテーマと大学での学問にどのような関係があるのかを理解する「学問かるた」を使った、ワークショップを開催しました。



広い世界で経験を積んだ子どもたちが、未来の高島市を織りなしてくれるように

このような思いで、「地域連携による高校生キャリアデザイン事業」に取り組んでいます。

今後も市内小中学校との連携を深め、切れ目のない人材育成と高島市の担い手づくりに取り組んでいきます。

☎ 市民協働課
(25) 8526